

会 議 記 録

名 称	中央区基本構想審議会躍動部会（第3回）	
開催年月日	平成28年6月13日（月）18:30～20:15	
場 所	中央区役所本庁舎8階 第一会議室	
出席者	委員	金井利之（部会長）、中西史（副部会長）、石田英朗、杉原慶一、古屋勝彦、松岡肇、森山照明、山本泰人、岩田享也、立川智誉、島田勝敏
	幹事	平林治樹（企画部長）、長嶋育夫（区民部長）、高橋和義（教育委員会事務局次長） 御郷誠（企画部副参事（都心再生・計画担当））、園田典子（広報課長）
配布資料	中央区基本構想審議会躍動部会（第3回）次第 中央区基本構想審議会「躍動部会」委員・幹事名簿 中央区基本構想審議会躍動部会（第3回）座席表 資料1 躍動部会の議論の概要 資料2 中央区基本構想躍動部会 現況と課題・施策の方向性（素案）	
議事の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議題 <ol style="list-style-type: none"> （1）躍動部会の議論の概要について （2）中央区基本構想躍動部会 現況と課題・施策の方向性について （3）その他 3 閉会 	

1 開会

配布資料の確認。

2 議題

(1) 躍動部会の議論の概要

(2) 中央区基本構想躍動部会 現況と課題・施策の方向性

事務局から、資料1「躍動部会の議論の概要」及び資料2「中央区基本構想躍動部会 現況と課題・施策の方向性（素案）」を説明。

金井部会長 資料2「中央区基本構想躍動部会 現況と課題・施策の方向性（素案）」は委員の意見を踏まえ、施策の方向性に肉付けをした事務局案である。本日はこれをたたき台に活発な意見をいただきたい。事務局は本日の意見を踏まえて次回までに施策の方向性を修正していただきたい。

まず1つ目の大項目、「多彩な産業が地域に活力を与え、多様な人が集いにぎわうまち」の施策の方向性について意見をいただきたい。

松岡委員 築地場内市場跡地の隣には浜離宮庭園がある。大変素晴らしいところだがアクセスが悪く区民も行く機会が少ない。魚河岸跡地の入江に橋を架けるなどして市場跡地との行き来ができるようになると、オリンピック選手村からの観光地にもなるため検討いただきたい。

事務局 築地の跡地については、11月に豊洲に移転後、解体工事等が始まり更地となる。オリンピック開催時においては交通関係で活用されるのではないかと考えている。その後については東京都も全くの白紙の状態であるが、中央区としては、観光バスのモータープールのような機能は残しつつ、切り売りをせず大きな開発にしたいと要望を出している。浜離宮庭園に橋を架けることは将来の構想として狙上にも上がっていないが、委員からの意見として受け止めたい。

古屋委員 2020年東京オリンピック・パラリンピックの課題として、パラリンピックをしっかりと開催して民度の高さを示す必要があるということと、文化プログラムを強力にやる必要があるということがある。先日、銀座通りでパラリンピック選手を呼んで第1回目となる普及啓発イベントを行った。これまでアプローチする機会が少なかった身体障害者の方との関わりを今後積極的に考えなくてはいけないと思う。また文化プログラムについても、国民の目線で色々な文化プログラムを行うことで、民度の高さを示すことができると考える。

事務局 資料2の7ページにスポーツに関する方向性を書いている。パラリンピックに関連しては、「(ア) ライフステージに応じた生涯スポーツの推進」に、「子どもから高齢者まで、また障害のある人もない人も」、また、「(イ) 身近にスポーツ活動ができる場の提供」に、「障害者スポーツへのニーズを踏まえたスポーツ環境の充実」という、今後必要となる取組を記載している。

事務局 中央区のスポーツ事業として、「障害者スポーツ体験会」を実施している。健常者も参加するイベントでは障害者の方が気兼ねして参加されないケースが多く見受けられるため、障害者の方だけが集まってスポーツに触れる機会を提供している。また、パラリンピック競技を実際に体験してもらう「ゴールボール体験会」では、視覚障害を持つパラリンピック選手が耳で音を感じてボールを防ぐことに、子どもたちが驚いており、良い体験となったと考えている。いかに障害をお持ちの方の参加を多くするかが課題となっており、これらの取組の場を増やしていきたい。

金井部会長 事務局は、今何に取り組んでいるかではなく、基本構想に盛り込むかどうかという視点から、どのような姿勢で臨むのか答えていただきたい。

- 古屋委員が仰った文化プログラムの関係で何か説明はあるか。
- 事務局 現在、中央区ではオリンピック・パラリンピックに向けた区民協議会を立ち上げており、下部組織として観光文化に関する部会がある。文化プログラムの規定はまだできていないため、現在はロンドン大会での文化プログラムの事例から、中央区として何ができるか検討しているところである。基本計画に何を書き込めるかははっきりしていない。
- 金井部会長
事務局 基本構想には入らないということか。
現段階では入らない。
- 山本委員 日本橋では複数の再開発事業があるが、それぞれの事業が先端企業の誘致や商店街との共生などについて個別に考えている。複数の再開発事業が進む際には共通の基盤(プラットフォーム)の上に個々のプロジェクトが立ち上がることが望ましい。例えば、まちづくりデザイナーによる、自然環境や高齢化社会など、これからの人々の価値観に重要となる要素を取り込んだ共通したまちのイメージの上で、にぎわいや伝統などをそれぞれ考えることが大事である。中央区は行政の香りがして、まちのロマンがなかなか感じられないが、さまざまな特色が調和した集合体としての区のキャッチフレーズが別にあっても良いと思う。大きなデザインづくりが根底にあった上でそれぞれが活性化していくためにはタウンデザイナーのような人々の意見を入れていくことも必要ではないかと感じた。
- 金井部会長
事務局 今のような意見は素案に活かされているか。
資料2では「現況と課題」、「施策の方向性」という具体的な案を示している。山本委員が言われた、基本構想の原点となる20年後のまちのイメージについては、部会で出た意見を基に、今後起草委員会において作り出していきたいと考えている。そのたたき台となる議論が各部会における「現況と課題」、「施策の方向性」であり、これをまとめ、中央区の20年後の姿を作り上げていく考えである。従って資料2に直接的に入る内容ではない。
- 杉原委員 オリピックを控え、外国人観光客は増えると思う。私は銀座に住んで42年目になるが、ここ数年来の外国人の多さには驚いている。日本は外国人との付き合いはあまり得手ではなく商店街では外国人との付き合いがうまくいかないケースが出てきている。たくさん来て、買っていただいているから、やむなく対応しているという話を聞く。外国人は国によって価値観が異なるが、日本のことを知ってもらうための宣伝活動を早急に行わなければ、トラブルは尽きないと思う。
- 事務局 ご指摘はもともとであり、対応策として、資料2、3ページの「(イ) 来街者受入環境の充実」を示しているが、外国人観光客を受け入れる経験を積み重ねていくことがまず大切である。また裏面に「情報の発信に当たっては、国内はもとより海外にいる人もターゲットとすることが重要」と書いたが、観光客への一方的な通信だけではなく、観光客による口コミの発信などを含めて、日本の習慣や文化を同時に発信していくという視点が大切であり、積極的に取り組んでいくべき課題でもある。
- 中西副部会長 資料1の3つの項目のうち、「魅力創出」と「商業・工業・観光」、「教育」の2つは意味合いが異なる。「魅力創出」がベースにあり、それを活かして他の2つをどう創り出していくか、考えていくかという位置関係だと思うが、一方で資料2との対応が難しい部分もある。山本委員の話にもあったが、タウンデザインにより魅力創出をベースとした核を作り、他の項目を関連づけると姿も見えやすいと思う。一般的に行政として押さえるべき項目が並列で書かれており、中央区のことをよく理解できていない人には、どこに重点が置かれているか分かりにくいと思う。躍動部会として何を押ししていくのかについての色があっても良いと感じた。
- 事務局 資料2は各分科会での議論を基に審議会に報告するものである。審議会では大き

な方向性を議論することとなっている。資料1の「魅力創出」は資料2にはない分類だが、躍動部会において中央区の魅力はこの2つだろうという議論がされていたことから、資料2においてそれぞれに散りばめて反映している。従って資料1はエッセンスとして全体の意見をまとめる趣旨で作成したものであり、資料1の構成が資料2に直接つながっているわけではない。

金井部会長 一般的に、市民、区民参加の会議体においては、様々に出た意見をまとめていくといくつかのまとまりができる。躍動部会で出た様々な意見を事務局がボトムアップにまとめた結果、「魅力創出」という大きなまとまりが出てきたということである。委員の意見を整理したボトムアップの仕訳と、事務局が考えていた仕訳が不整合を起こしているということであるため、資料2だけではなくて、魅力創出に当たる全体を貫く総論的な考え方は審議会に報告したほうが良いかもしれない。他の部会でも全体にわたる意見が出ているかと思うので、今後、事務局には、知恵を出していただければありがたい。資料1と資料2が整合していないのはむしろ良いことである。

山本委員 スマートシティの構想について言及されていない。中央区は水辺が多く、水運や人の動き、車の動きがバランスよく融合する交通体系は未来性があると思う。また、これに関連して、水辺を活用して太陽光発電を行うといった環境対応型のエネルギー創出に中心軸を持っていくことを考察の対象にしてはどうか。これは個々の再開発プロジェクトにおいても取り入れられる可能性がある。

金井部会長 次に2つ目の大項目、「豊かな学びにあふれ健やかな身体を育むまち」について意見をいただきたい。

岩田委員 最近ではマンションが建ち、地域と関わりを持たない新しい住民が増え、PTAの取組を理解してもらえない場合もある。しかし、中央区では地域のお祭りや、町会、商店街などが良い形で残っており、それらに参加してもらうことで地域に馴染んでもらえると良い。

オリンピック・パラリンピックでは、学校でも関連した教育が充実しており、パラリンピアンを呼んだイベントなどを実施し、評価していただいている。

中西副部会長 年間出生数が2,000人に迫り、計画的な増改築や新たな施設整備が必要になる。東京学芸大学では現在、教育実習で小学校を訪問しているが、どの地域でも統廃合や児童数の急変により、設備が余っている学校と、教室が足りず倉庫のようなところを改築している学校がある。設備への規制が厳しい中で、現場ではなんとか子どものために良い環境をつくらうと苦労している現状がある。必要な規制はあるだろうが、今後動きの多い中央区では、教員が安心して教育に取り組める、また、子どもが良い環境で学べるような施策や規制緩和を検討していただきたい。

事務局 資料2に記載の通り、中央区では児童数が特に伸びているが、学校施設整備については計画的に進めており当面は問題ないと考えている。しかし将来人口が20万人になるという推定も出ているため、基本構想ではその先を見越した学習環境の整備をしっかりと検討したい。

中西副部会長 見越しきれない部分があっても出てくるため、柔軟に対応していただきたい。
事務局 柔軟に対応していきたい。

金井部会長 資料2の4ページ、「(1) 現況と課題」の、「増改築や新たな整備が必要となります」や、「(2) 施策の方向性」の、5ページ、「良質な教育環境の整備を図っていく」という部分が今の議論に該当する。「施設を作る」と記載しないことで長期を見込んだ柔軟な対応を表現しているように読み取れる。児童数の増加に対応しなければ施設が不足するが一方で作り過ぎると余ることになる。保育所でも同じ問題があるが、

- 「柔軟に」という要望があったことは配慮いただきたい。
- 島田委員 学校施設は多目的ホールや図書室、避難所など一定の基準が法律で決められているため、規制緩和は国の管轄となる。「柔軟に」の意味について補足すると、中央区の学校では多目的ホールなどが余裕を持って作られており、児童数の増減に対してそれらを利用して対応していることがあてはまると考えている。
- 資料2にある「良質な教育環境」については、ハード面だけではなく、中央区の状況、環境の中で全ての子どもたちに配慮した良質な教育環境を整備していきたいという意味である。
- 立川委員 6ページ、「③ 生涯にわたり学ぶ喜びを分かち合える学習活動の推進」について、中央区の区民向け講座は、親子や高齢者向けが中心で、働き盛りの30、40歳代向けの講座が少ない印象がある。次のキャリアを考える際にファイナンスや語学などを学ぼうとしても費用がかかるため、充実すれば嬉しい。また、これから何か始めようという人に対してボランティアのマネジメントや、NPOの立ち上げなどをトレーニングしてくれる場があれば良いと思う。
- 事務局 中央区の事業の中で、30、40歳代向けのビジネスのスキルアップが見劣りすることは否めない。生涯学習の分野では、講師を呼ぶと費用もかかるため、需要に基づいて、そのようなレベルの高いものではなく、区民カレッジで一般常識や歴史認識などの講座を行っている。区民のニーズをもとに早稲田大学エクステンションセンターと分担をしているところだが、講座の内容については今の意見を踏まえて検討していきたい。
- 事務局 ボランティアとNPOの立ち上げについては、今後新しい住民が増えるなかで、協働の観点から中間支援拠点やボランティアセンターなどを通じてボランティアやNPO、町会などによるパートナーシップに基づくつながりを深めていきたいと考えている。詳細は次の大項目で説明したい。
- 金井部会長 区の事業は高齢者、子育て世代向けが中心となる場合が多いため立川委員の意見は検討のきっかけにしてほしい。
- 中西副部会長 5ページ「(ア) 質の高い教育の展開」について、具体的には書きにくいと思うが、抽象的である。例えば「(イ) 魅力ある学校づくり」において、「学校力」を強化するや「教員の資質・能力の向上を図る」などはその通りだが、なかなか上手くいっていない現状が日本各地にあるので、具体的な施策、支援を書きいただきたい。
- 島田委員 基本構想という位置づけの中で記載している。学習指導要領の改訂への対応も含め、教員の指導力等の具体的な施策については基本計画を策定する段階で、教育委員会とともに検討していきたい。
- 金井部会長 次に、3つ目の大項目、「人々のつながりが広がる文化の香りと平和に包まれたまち」について意見をいただきたい。
- 古屋委員 大項目2、3は、教育分野などは他の部会と重なる内容か。
- 事務局 他の部会と重ならない分野分けをしている。
- 事務局 意見をもらう前に、本項目の基本的な考え方を説明したい。
- まず8ページ「(2) 施策の方向性」について、町会、自治会は地域を基礎とするコミュニティであるという基本認識がある。「①- (ア) 都心コミュニティの活性化」に記載のとおり、これまで地域のコミュニティとして、防犯、防災、子育て、お年寄りの見守りなど様々に対応しており、地域の課題や需要に対応する上で今後も町会、自治会の重要性は変わらないと考えている。一方で、新しい住民の地域活動への関わり方や、今後の担い手不足が課題となっている。これらの課題に対してはこれまで取り組んできた町会への加入促進や担い手の養成講座、地域のイベントに対

する助成、また、「こんにちは町会です」などの広報活動に対する支援を通じ、新しい住民を含めた交流を促進していく考えである。また、企業や在勤者の方から、企業組合員という形で町会が協力を得ているケースもあるが、今後はボランティア団体や、NPO 等との連携も視野に入れていく必要もある。ただ、ボランティア団体は目的別の団体であるため、町会ごとにどの団体とどのように連携するか選択していかなければならない問題ではあるが、区としては目的別の活動が地域の需要に結びつくように取り組んでいきたい。

以上の基本的な考え方に基づいて、「都心コミュニティの活性化」、「協働による地域課題の解決」を記載している。

岩田委員 我々がPTA活動をしていると、運動会でテントを借りたり、盆踊りを学校で行うなど、地域や町会と連携を取ることが多いが、町会の中でも若返りを図ることができている町会と、(若い世代が)活躍しきれていない町会に分かれていると思う。石田委員が仰ったように、中央区に住んではいないが、働いている方が町会に参加するといった多様性、柔軟性が大事である。

金井部会長 加入促進をどう行うか踏み込んで検討しなければ、施策の具体的な姿は見えてこない。

石田委員 以前から良好な都市型地域コミュニティの創出について議論はあったが、これまで具体的な施策は書かれていなかった。「企業や在勤者、ボランティアなどさまざまな団体」と具体的に書き込んでいることで、今まで漠としていたイメージが膨らんだ。松岡委員から話があった浜離宮庭園についても、新しいまちとして生まれようとしている築地と、浜離宮庭園を結びつけていくような記述が出てくるとイメージしやすい。全体的に、表現が無難な範囲に留まっているが、都市型コミュニティという町会の具体性を示したことは素晴らしいと思うので、こういった書き込みを広げてほしい。

20、30年程先を目標に基本構想を練っているが、山本委員の話にあったスマートシティも含め、50年、あるいは100年先まで見越して構想しなくてははいけない。繊維産業が流通の変化によって衰退し、また中央区の基幹産業である印刷業が、コンピューターの活用が進み衰退していくなど色々な要素がある。50年先は分からないこともあるが、どのようなまちにしたいのか、しっかりと審議会に反映していただきたい。

事務局 今後は施策の方向性を深めていきつつ、来年度からより具体的な基本計画に事業を落とし込んでいくこととなる。施策の方向性については、本部会での委員の意見、また3つの部会での議論を踏まえて見直し、次回、再提示したいと考えている。

全部会で共通する中央区の未来像については、他の部会においても求められており、各部会が始まる前に示す必要があったかもしれないが、「行政が目標を決めて出すのもどうか」という議論が内部であったため、部会での議論を通じて作っていきたいと考えている。

杉原委員 私の住む銀座8丁目では緊急時に泰明小学校の門を開ける人が選ばれているが、昼間は中央区で働き、夜には地元に戻るケースが多く、中央区在住で夜間の緊急時に門を開けることができる人は現在1人しかいない。中央区でも特に京橋、日本橋、銀座では自宅がある地元の自治会だけでなく、昼間は中央区の町会に加わるといった対応をする必要がある。

事務局 銀座地区では夜間人口が少ないが、町会全体では千差万別であるため、基本的には地域ごとに対応する必要がある。町会がそれぞれ抱える課題を行政やボランティアがどのように補うか考える必要があるが、その意味ではNPOやボランティアはまだ育っていない。様々な団体があるがそれぞれの活動に特徴があるため、今後は地

域の需要とのマッチングを含め、それぞれの町会で考えていただきたいところであり、区も相談してまとめていきたい。

(3) その他

金井部会長
森山委員

議題「(3) その他」として、全体を通じて質問、意見をいただきたい。

私の住む佃はファミリー層が多く子供を介して町会が身近にあるが、銀座1～8丁目の東銀座にはファミリー層がほとんど住んでいない。マンションは多いが、夫婦か単身世帯が中心である。私も銀座2丁目の町会役員でお祭りや夏のイベントなどを企画しているが、町会が「ムラ」になっているような感じで、新しい住民は参加しにくい様子である。佃、月島では、子どもを介して若い世代のつながりができて賑わっているが、銀座地区、京橋地区は、住民、特に家族世帯が少ないまちなので、町会のイベントを区の広報でPRするなどして、町会に上手く加わっていただけるような雰囲気を作ってもらえるといい。

事務局

新しい住民を取り込む一番のきっかけは小学校であるが、小学校を核とした交流自体が少なくなっている。イベント助成や出会いの場づくりも当然であり、また町会活動をやりたいという人に対しては、地域コミュニティの担い手養成講座を今年から始めている。町会に加入する敷居が高いのであれば、行政がそのような講座や、NPO、ボランティアとの連携などをきめ細やかに行う必要があると思う。

森山委員

新しい住民にも町会に参加してもらい、これから中央区に何十年も住んでもらうような雰囲気を作っていく必要がある。新しい住民にとって、町会とはどこに行ってもどうすれば入れるのか分からないと思うので、そういった時に適切に案内することで、長く住んでもらうことにつながると思う。

岩田委員

事例を2つ挙げる。1つは小学校がうまく活用されているということで、例えばバスハイクや地域の祭りを町会に限らず、学区を対象に広く呼び込むことで盛況となっている例。PTAとしても学区で面倒を見てもらえると学校で案内しやすいので活用してもらいたい。もう1つは、我々の学区の町会では、地元の間人ではない若い父親が3、4人おり、地元の町会長から活動を任せられ御神輿の組み上げから全部やっているという例。地域の重鎮の方々が新しいメンバーに権限移譲をし、後押しを積極的に行えば、新しい若い世代も動きやすくなる。

杉原委員

横浜市都筑区では公園同士が全て歩道でつながっている。あれはかなり先を見据えた計画であったと思う。山本委員の話にもあったように、専門分野の方の意見を聞いて、将来どうなるかを考えながら長い目でたたき台を作っていく必要がある。

学校に関しては、高齢者施設と小学校などを統合し、お年寄りや障害のある子どもとともに生活することで、お互いの違い、痛みについて理解が深まり、良い結果が生まれるのではないかと。

山本委員

日本橋では、新しい企業が入ることで住民構成比が下がってきているが、一方でにぎわいが創出されている。古くからの地元の方々の活動と、新しい方々の活動が結び付けられるように交流の場をつくりながら、企業の理解を得て商店街に入ってもらいなど、新旧馴染めるような入りやすい雰囲気を作っていく必要がある。

また、これからの時代は女性、高齢者も働かないと、労働力人口が足りなくなると言われている。保育所についても記載があったが、女性が働きやすい環境の整備、高齢者の方々の雇用の創出も考えていければ良い。

事務局

3つの部会の共通項として、日本を牽引する東京のエンジン役としてということと将来の20～23万人という人口動向を踏まえた行政サービスのあり方をキーワードに掲げている。躍動部会においてはソフト部門が中心で、別の部会でまちづくり、ランドデザインをどう描いていくのかを議論している。ただ、ランドデザイン

とソフトは密接に関係があるため、共通項を踏まえつつそれぞれの部会で検討を進めてきているところである。高齢者の雇用創出や保育所の整備などソフト面での他の部会の議論も反映しながら、20年後の中央区の姿、ランドデザインを描き、ソフト面を合わせる作業を進めたい。いただいた意見等を踏まえ、どう活かせるのか、各部会で調整を図り、次回お示ししたい。

金井部会長 都市における経済、開発プロジェクトが高齢者だけの地域、子どもが少ない地域を生み出したりするなど、ソフト面に強い影響を与え、結果としてコミュニティづくりが困難な状況になってしまうこともありうるので、区として大きなデザインを考える必要がある。全体像が見えないままでは、コミュニティづくりなどを進めても個々の結果に留まりかねない。他の2つの部会からの報告についても、人々の躍動につながるかという視点から見ていく必要がある。

中西副部会長 日本の牽引役としての中央区のイメージを持つためには、具体的な言及が必要である。

金井部会長 どこで何を牽引するのか、20、30年後の姿がイメージできないと、フィジカルな配置もされないので、積極的に打ち出していきたい。

3 閉会

金井部会長の閉会宣言により終了。